

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

大学院学生研究

2020年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 現代心理学 研究科 心理学 専攻		
研究代表者 (2021年3月現在 のものを記入)	在籍課程・学年・学生番号		氏名
	<input type="checkbox"/> 博士前期課程 年 <input checked="" type="checkbox"/> 博士後期課程 1年 (学生番号: 20ww002d)		張馨月 印
指導教員	所属部局・職		氏名
	立教大学現代心理学部心理学専攻		浅野倫子 印
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ 社会	個人・共同の別	個人 ・ 共同 名
研究課題	映像と音楽の印象的調和・不調和が没入感に及ぼす影響－感情価と覚醒度の2次元から－		
研究組織 (研究代表者 ・共同研究者) ※2021年3月現在 のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏名
	現代心理学研究科・心理学専攻・博士課程後期課程・1年		張馨月
研究期間	2020 年度		
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 148,848円 / (採択金額) 150,000円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

視聴覚情報の印象の調和・不調和と映像的没入感の関係は未解明で、申請者はこれまでに視聴覚刺激の印象(ポジティブ・ネガティブ)の調和・不調和が映像的没入感に与える影響について調べた。しかし、印象は感情価(ポジティブ/ネガティブ)と覚醒度(高覚醒/低覚醒)の2次元を含むので、ポジティブかネガティブかという、印象の感情価だけでなく、覚醒度も含めて、視聴覚情報の印象が調和・不調和が没入感に及ぼす影響について調べる必要がある。従って、本研究では、感情価の強さと覚醒度がそれぞれ映像的没入感に与える影響を調べるために2つの実験と、これらの実験で使用する視聴覚刺激を選定するための予備実験を行う。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 映像的没入感 } { 視聴覚情報の印象的調和 } { 音と画の対位法 }

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**研究の背景と目的**

映像作品を観るとき、人は没入感を体験することができる。しかし、映像的没入感は視覚情報と聴覚情報の不一致性(例:映像と音声のズレ)によって妨害されるとされている(Bjørner, Magnusson, & Nielsen, 2016)。また、視覚刺激と聴覚刺激が時空間的・意味的に調和すると情報処理がスムーズになることは、多感覚研究でも示されている(Macleod & Summerfield, 1987; Dolan, Morris, & de Gelder, 2001)。意味的調和には、猫の映像と猫の鳴き声のような意味の類似性による調和もあれば、明るい映像と明るい音楽のような印象の類似性による調和もある。以上を踏まえると、映像と音楽の印象が不調和の場合、視聴者は没入を体験することができないと考えるのが自然だろう。

しかしその一方で、「音と画の対位法」という映像と音楽の印象を対立させる映像作りの技法が存在する。例えば、黒澤映画『野良犬』では、犯人と刑事が対決する緊張感溢れるシーンに、優美なピアノ曲と子ども達の歌声が付随した。音と画の対位法がもたらす効果について、映画製作の分野では、あるシーンの支配的な雰囲気がそれによって中和されたり、逆転されたり、時には風刺や皮肉の効果ももたらされたりすると評価されている(Giannetti, 1993)。音と画の対位法が用いられた映像作品のシーンは総合的評価が良いことを示した心理学的研究(藤山・江間・岩宮, 2013)もある。これらの知見を踏まえると、映像と音楽の印象の不調和によって没入できなくなるとは考えられにくい。従って、映像と音楽の印象の調和・不調和は、どのように没入感に影響を与えるかという問題点が生じた。

申請者はこれまでに視聴覚刺激の印象(ポジティブ/ネガティブ)の調和・不調和が映像的没入感に与える影響について調べ、映像的没入感は視聴覚刺激の印象の調和・不調和に影響されないという結果を得た。しかし、印象をポジティブかネガティブの2種類だけに分類するのでは、上記の研究テーマを検討するには不十分だと考えた。また、これまでの研究では、「印象」を視聴覚コンテンツにより生起しうる感情として定義したが、感情は、感情価(ポジティブやネガティブ、ニュートラル)と覚醒度(高覚醒, 低覚醒)という2つの次元を含む(本間, 2014)。すなわち、これまでに印象の感情価(ポジティブ/ネガティブ)についての検討しか行わなかった。従って、本研究では、感情価と覚醒度の2次元に沿って、それぞれが映像的没入感に及ぼす影響について調べる。

研究方法

本研究では、感情価と覚醒度の調和・不調和がそれぞれ映像的没入感にどのような影響を及ぼすのかを調べるために、2つの実験を行う。いずれの実験においても、視覚刺激と聴覚刺激を両者の印象が調和、あるいは不調和になるように組み合わせて、視聴覚コンテンツを作成する。実験1では、視覚刺激と聴覚刺激の覚醒度が一致するように統制し、感情価のレベルを操作するのに対して、実験2では感情価のレベルを統制して覚醒度を操作する。また、本実験で使用する視覚刺激と聴覚刺激を選定するために予備実験を行う。

予備実験では、参加者を視覚刺激を選定する映像グループと聴覚刺激を選定する音楽グループにランダムに振り分ける。映像グループでは参加者に映像クリップを提示した後に、その映像の感情価と覚醒度について評定してもらう。音楽グループでは音楽クリップを提示した後に、参加者にその音楽の感情価と覚醒度について評定してもらう。また、2つの本実験では参加者に視聴覚コンテンツを提示した後に、映像的没入感を測定する質問紙に記入させる。

研究経過と成果

視聴覚情報の印象(感情価・覚醒度)の調和・不調和が映像的没入感(映像への没入感)に与える影響について調べることが目的だが、映像的没入感にははっきりとした定義と、映像的没入感を測定できる尺度が存在していないという問題点がある。これまでにゲームへの没入感やフロー体験などの関連概念を参考してきたが、フロー体験チェックリストでは映像的没入感を測定できないかもしれないという指摘を多く受けた。そのため、2020年4月から6月までに映像的没入感をどう定義すべきか、そしてどのように測定するかについて、文献調査を丹念に行い、整理した。具体的に、(1) Busselle and Bilandzic (2009)の narrative engagement の定義とそれを測定する尺度である narrative engagement scale、(2) Ryan (2015)の narrative immersion に対する定義、(3) Vorderer, et al. (2004)の spatial presence を測定する尺度、を参考にして映像的没入感の定義と測定法を整理した。同時に、上記の文献調査の結果を踏まえて、視聴覚刺激の感情価や覚醒度と映像的没入感との関係を予測し、どのような感情価や覚醒度レベルを持った刺激を実験に用いる必要があるかを明らかにした。

2020年6月から、上記の文献調査から得られた結論に従って視覚刺激(映像)と聴覚刺激(音楽)を準備した。申請当初では映像刺激を Carvalho, Leite, Galdo-Álvarez, & Gonçalves (2012)の映像データベース(EMDB)から選定する予定だったが、EMDBの映像は画質が悪く、映像への没入を妨げる恐れがあるため、著作権法に抵触しないように配慮しながら、解像度の高い映像クリップ(例えば、一般公開された映画やテレビド

研究成果の概要 (つづき)

ラマ、それらの予告編など)を探した。また、当初はクラシックのピアノ曲を聴覚刺激として使用するつもりだったが、映像と音楽の時間的調和(音楽のリズムと映像の動きの同期的な関係によって生じる調和)を保証するために、映像クリップに元々付随している音楽(映像作品のサウンドトラック)をなるべく使用することに決定した。また、本実験ではそれぞれ低、中、高程度の感情価と覚醒度レベルをもった映像と音楽刺激を複数用意する必要があるため、予備実験の段階ではなるべく多く刺激の感情価と覚醒度レベルを評定してもらわなければならない。従って、申請者は6月から10月までに、著作権に問題のない映像クリップ51個と音楽クリップ56個を探し集め、さらに編集を行った。

視覚刺激と聴覚刺激を用意できた後に、2020年11月に予備実験と本実験の倫理審査を申請し、2021年1月に承認された。現在は本実験で使用する視覚刺激と聴覚刺激を選定するための予備実験を実施しており、視覚刺激を選定する予備実験では17人、聴覚刺激を選定する予備実験では18人分のデータが集まった。

また、実験およびそのための準備以外に、これまでに行ってきた研究の理論面をブラッシュアップし、英語論文を作成した。3月に英文校閲の結果が返却されてきており、現在投稿するために最終チェックを行っている。さらに、3月7日にこれまでの研究成果を「注意と認知」研究会において口頭発表した。

研究発表 (研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて提出してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① なし

② なし

③ なし

④ 張馨月・浅野倫子 (2020) : 視聴覚コンテンツの印象の調和・不調和が映像的没入感に与える影響. 「注意と認知」研究会第19回研究会 (zoomミーティング), 口頭発表.